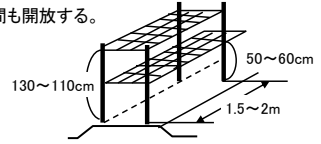
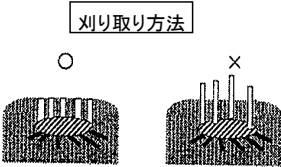
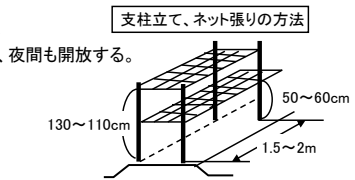


アスパラガス(2年目以降)

県央地域農業振興協議会技術者会野菜部会

月	旬	作型	主要作業	主要病害虫	作業の要点
1	上	保温開始	茎葉刈取り バーナーによる残渣焼却		＜残渣処理＞ バーナーにより残渣を丹念に焼却するが、特に茎枯病発生圃場や一部の発生部分は2度焼きも含めより丹念に焼却する。 ＜春肥施用＞ ・保温開始前に全面に施用し、畝溝を中耕したあと、再び整畝する。覆土の厚さは10～12cmを目安とし浅くならないように注意する。 ＜温度管理＞ ・温度の確保と霜害対策のため二重カーテンを張る。 ・萌芽までは換気しない。 ・萌芽後、日中35℃以上にならないように換気する(湿度を十分に保つ)。 ・夜は密閉する。最低気温がコンスタントに10℃以上になる頃(4月下旬)、夜間も開放する。 ＜かん水＞ ・収穫開始後、畝表面が乾かないように適宜かん水する。 ＜収穫＞ ・収穫は若茎が27～28cmになった時、全茎地際より収穫する。 ＜立茎開始の目安＞ ・2Lの収量が少なくなってきた頃。 ・収穫量が15kg/10a/日以下が同じ天候で3日続いた頃。 ・春どり収穫の目安:2年株 40日程度 3年株以降 45～55日程度。 ・収穫茎の穂の開きや節の凹凸が目につく前。 ・春芽が細い、萌芽が悪いなど株の勢いが弱い部分は立茎開始の目安にこだわらず、早めに立茎を開始する。 ＜立茎の方法＞ ・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		春肥施用、かん水 除草剤散布、保温開始		
	下				
2	上	収穫	収穫開始・かん水	ナメジ ウスカワマイマイ アザミウマ類	支柱立て、ネット張りの方法 
	中		害虫防除		
	下				
3	上	立茎	支柱立て 立茎開始(2年株)	茎枯病感染開始 褐斑病感染開始	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		立茎開始 茎枯病重点防除開始 夏肥施用		
	下				
4	上	立茎	褐斑病防除開始	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		二重カーテン除去 通路の中耕		
	下				
5	上	収穫	夏肥 摘心 夏どり開始	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		追肥 病害虫防除		
	下				
6	上	立茎	病害虫防除 追肥	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		病害虫防除 追肥		
	下				
7	上	立茎	整枝 台風時事前対策 病害虫防除	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		追肥 茎葉整理		
	下				
8	上	立茎	追肥	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		病害虫防除 追肥 茎葉整理		
	下		病害虫防除		
9	上	立茎	茎葉整理 病害虫防除 追肥	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		茎葉整理 病害虫防除 追肥		
	下				
10	上	立茎	病害虫防除 追肥 夏どり終了	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		病害虫防除 追肥 夏どり終了		
	下				
11	上	立茎	かん水 追肥	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		かん水 追肥		
	下				
12	上	立茎	かん水	アザミウマ類 ヨトウムシ類 ハダニ類 褐斑病	・茎径10～12mm程度(L級)の太さで、勢いがあり素性の良いものを立てる。 ・畝長1m当たり10本程度立茎する(条間1.8m以上は少し多めに立茎する) ・立茎は段階的に行い、同一箇所より離れた場所のものを残す。 ＜支柱立て＞ ・1.5mの支柱を立て、ネットを張る(台風及び風対策のため、ネットの2段張り)。 ・2段目のネットの高さは台風でビニールをはいだ(はげた)場合、強風で親茎上部が折れないように、110～130cmとする。 ・通路の土壌が硬化している場合、管理機等で土壌を中耕する(立茎終了期)。 ・茎葉が展開を終えてから地上120～140cmの高さで摘心する。 ・5月に入るとハウスを全面的に開放し通風をよくする。ただし降雨で茎葉は濡らさないようにするが、降雨後は速やかに開放する。 ・発根促進のため、発根促進剤を施用する(以後、適宜)。 ・かん水は畝の表面が乾かないよう適宜行う。 ・収穫は早朝、夕方の2回行う。 ・ハスモンヨウ発生予察および適期防除のため、フェロモントラップを設置する。 ・ネギアザミウマ、タバコナジラミ対策として、5月中旬頃に天敵製剤(スワルバンカーロング等)を登録内容に従い設置する。 また、放飼した天敵の長期間の活動を助けるため、天敵温存植物(スカエボラ等)を3月下旬までにハウス内に植栽しておく。 ※天敵を放飼した場合の農業散布については、天敵に影響の少ない薬剤を使用するように注意すること。 ※天敵の使用にあたっては、「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」(令和7年3月農林技術開発センター監修)を参考とする。
	中		かん水		
	下		病害防除		
(台風事前対策)					
(1)施設の補強及び倒壊防止					
施設の倒壊を防ぐことを最優先する。					
(施設の強度にもよるが、風速25m以上の暴風になるとビニール被覆の状態では耐えきれない)					
①ビニルハウス施設は、押さえバンドの締め直しやビニールの破れた箇所を補修し、施設の基礎、パイプの接合部、土中への差し込み部などゆるみがないか点検を行う。					
②風速25m以下の場合は隙間が無いように密閉する。					
③風速25m以上の暴風圏に入りハウスの倒壊の恐れがあれば、被覆しているビニールは全て除去する。					
④ビニールを除去するとアスパラガスはもともに風が当たることになる。					
アスパラガスが絶対に倒伏しないように支柱の点検や補強、ネットやテープのゆるみがないようにしておく(特に風が直接当たりやすいサイドの畝はしっかりしておく)。					
⑤誘引ネットは親茎上部が折れないように高めの位置に展開しておく(摘心位置より10cm程度下)。					
(2)排水対策					
①圃場の周辺の用・排水路の草刈りや清掃を行う。畝はやや高くし、降雨時の圃場排水が速やかにできるようにする。					
(3)風雨対策					
①アスパラガスは強風や大雨で傷つきやすい。台風の襲来前には、防風ネットの点検、補強を行っておく。					
(台風事後対策)					
(1)ビニールをはいだ(はげた)場合の病害防除					
①褐斑病などが発生しやすくなるので、殺菌剤に葉面散布剤を混用して散布する。					
②特に塩害の恐れがあれば、薬液を多くして洗い流すように散布する。					
③雨に当たると斑点性病害の発生が拡大する恐れがあるので、ビニールは速やかに被覆する。					
(2)倒伏した場合					
①数日のうちに茎葉を起こし、通風・採光性を良くした状態に戻す。					
②5～7日後、黄化した茎葉を切除し、新しい茎と更新する。					
③起こした茎葉にむらなく殺菌剤に葉面散布剤を混ぜて散布する。					
(雪害対策)					
連棟ハウスの場合、雪が積もる前に谷換気を全開にする。					



<施肥基準例 kg/10a>		肥料名	春肥 (1月施用)	追肥 (2月～4月)	夏肥 (5月施用)	追肥 (例①～③は、8月下旬～) (参考例④は、立茎開始1ヶ月後～11月)	合計施用成分量 (N-P-K)
共通		完熟堆肥	3t		3t		
		セルカ	200kg				
例①		BBエコグリーン1号 (12-4-3)	80kg		240kg		49.7-13.5-10.9
		アスパラグスイース2号 (14-4-3)				10日に1回6.5kg/10a 10回施用 計65kg	
例②		ステップL (10-1-2)					
		アスパラグスイース2号 (14-4-3)	80kg		220kg	10日に1回12kg/10a 10回施用 計120kg	48.5-12.7-10.3
例③		BBエコグリーン1号 (12-4-3)	80kg		120kg		40.4-9.3-8.5
		アスパラグスイース2号 (14-4-3)			2週間に1回6.5kg/10a 9回施用 計58.5kg	10日に1回6.5kg/10a 10回施用 計65kg	
有機質資材 施用例 (参考例④は除く)		米ぬか (2-2.4-1.6)	100kg				12-7.2-4.8
		なたね油粕 (5-2.4-1.6)	200kg				
参考例④: 有機質肥料主体の 施肥体系		BBエコグリーン1号 (12-4-3)	100kg				
		有機入りベレット (6-5-3)		1回31kg/10a 5回施用 計155kg (1回あたりN成分2.5kg/10a、約2週間間隔)		1回41kg/10a 12回施用 計492kg (1回あたりN成分3.3kg/10a、約2週間間隔)	[1月～4月全N成分量] 24.5kg/10a [5月～11月全N成分量] 53.5kg/10a [年間] (有機入りベレット)78-40.4-25.4 (7ミツク17)78-17.5-25
		どちらか		1回23kg/10a 5回施用 計115kg (1回あたりN成分2.5kg/10a、約2週間間隔)			
		アミック17 (11-2-4)			100kg		
		アスパラグスイース2号 (14-4-3)					